

コピー機A及びBのレンタル検討

コピー機	レンタル料 (固定費)	コピー費 (変動費)
A	100,000円／月	10円／枚
B	120,000円／月	8円／枚

$$\frac{\text{固定費の差}}{\text{変動費単価の差}} = \frac{120,000 - 100,000}{10 - 8} = 10,000 \text{ 枚}$$

コピー枚数を x

コピー機の月額コストを C_A 、 C_B とおく

$$C_A = 100,000 + 10x \quad C_B = 120,000 + 8x$$

$$C_A = C_B \text{ のとき } x = 10,000 \text{ 枚}$$

優劣分岐点分析

コピー機A及びB共に設置済み

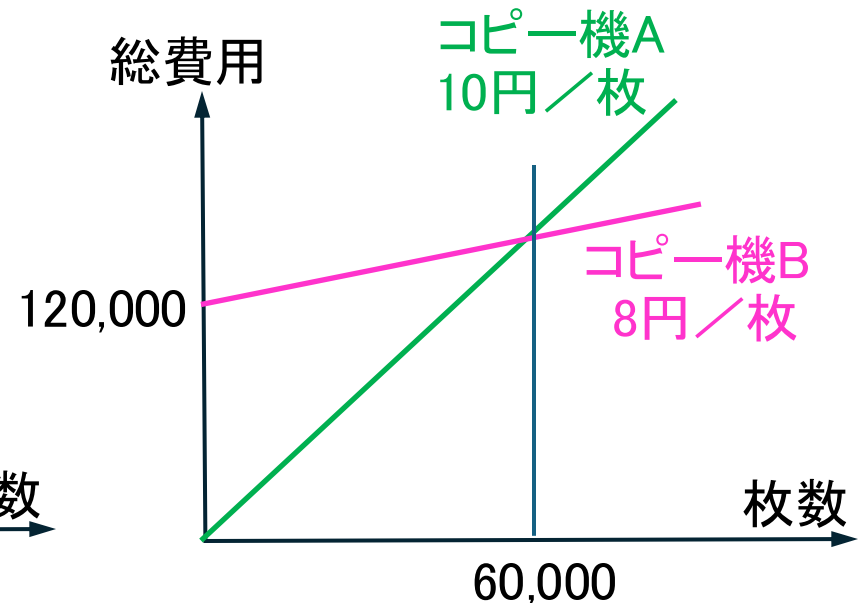
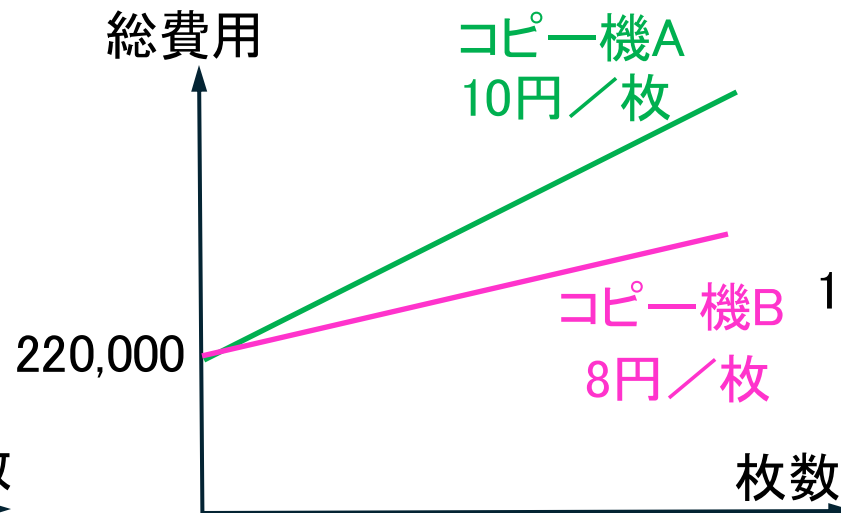
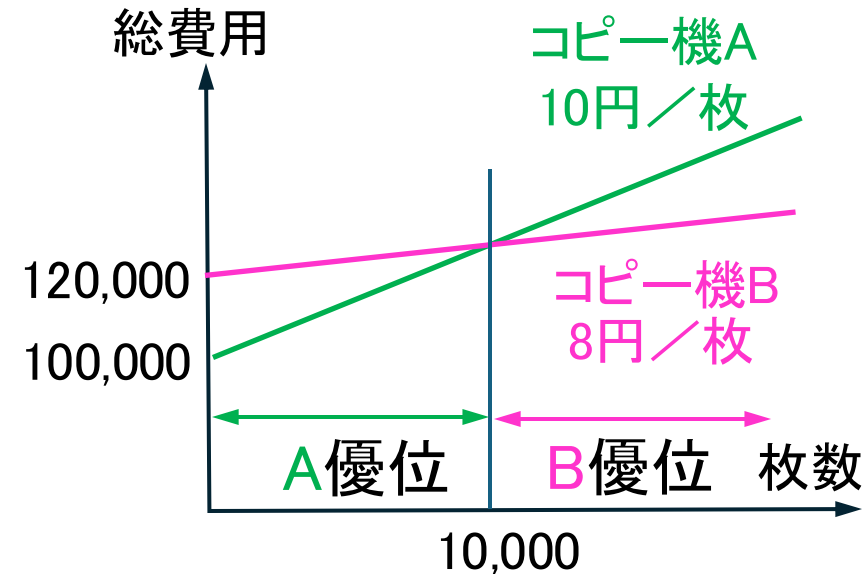
過去に発生したレンタル料は無関係原価として、将来の方針を決める計算に含めない

↓
B優位

当初6,000枚／月としてコピー機Aを設置(レンタル料: 100,000円／月)契約期間は6か月残っていて、キャンセル不可。コピー機B(レンタル料: 120,000円／月)を導入して有利になるか？

Aは設置済み

$$\frac{\text{固定費の差}}{\text{変動費単価の差}} = \frac{120,000 - 0}{10 - 8} = 60,000 \text{ 枚}$$



経営レバレッジ係数

販売数量: 10,000個
販売単価: 500円
1個当たりの変動費: 200円
固定費: 2,000,000円

売上高	5,000,000円	= 500 × 10,000
変動費	2,000,000円	
貢献利益	3,000,000円	=5,000,000－2,000,000
固定費	2,000,000円	
営業利益	1,000,000円	=3,000,000－2,000,000

貢献利益 = 売上高－変動費

営業利益 = 貢献利益－固定費

経営レバレッジ係数 = $\frac{\text{貢献利益}}{\text{営業利益}} = \frac{3,000,000\text{円}}{1,000,000\text{円}} = 3$

売上高	5,750,000円	15%増加
変動費	2,300,000円	15%増加
貢献利益	3,450,000円	15%増加
固定費	2,000,000円	変化なし
営業利益	1,450,000円	45%増加

営業利益は、売上の増加
(減少)率に経営レバレッジ
係数を乗じた割合で増加
(減少)

売上高	4,250,000円	15%減少
変動費	1,700,000円	15%減少
貢献利益	2,550,000円	15%減少
固定費	2,000,000円	変化なし
営業利益	550,000円	45%減少

15%増加 × 3 = 45%増加

15%減少 × 3 = 45%減少